
空

そばこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空

【著者名】

N1996C

【作者名】

そばー

【あらすじ】

どんより曇つた空の下。放課後の教室に残る双子の兄弟は会話する。しかし、弟の話はどこか奇抜で、兄には理解しがたく、またウザくて仕方ない。それでも、彼は静かに弟の話に耳を傾ける。

「なあー。太陽がないよ」

誰もいない放課後の教室で、窓から空を眺める赤い頭はそう言つた。

「そうだな」

青い頭の俺は簡潔に相槌を打つ。

「なんで」

赤いのは訊くので、

「曇つてるからだろ」

とまた簡潔に答えてやつた。

すると、赤いのは

「たいよおーっ！－！」

と空に向かつて叫んだ。

ああ、バカな奴。

赤い頭は俺の双子の弟で名を盟^{メイ}といつ。

一卵性のため、さほど似てはいないものの、身長とか体重とか、数値的なものは互いに近く、また、醸し出す雰囲気なんかも似ているらしい。

友人曰く、

『フエロモン垂れ流し』

だそうだ。

そんな俺たち双子だが、やつぱり似て非なる者同士。

髪型は、俺の方が短いし、色も互いに変えている。目の形は、俺がつり目、盟はたれ目。筋肉は、俺が目立たないのに対し盟はガッチリとはつきり分かる。

なのに、頭の中は盟の方が幼稚。もう高1だつて言つのと、せつしきみたいな事を言つ。

兄ちゃんは、恥ずかしいぞ。

「さつきから何なんだ」

呆れたよつて言つと、盟は俺を振り返つた。その目は恨めしげで……涙ぐんでいるよつて見えるのは、俺の氣のせいであつてほしい。

「太陽ないと、寂しいじゃんか。空、暗いし、オレ、沈んじやう

「勝手に沈め」

「いやあーつ！周^{ショウ}がオレをこじめるーっ……」

「……」

これが、俺と大差ない遺伝子構造をしてるのかと思ひついで、溜め息が出る。

てか、溜め息しか出ない。

だいたい、自分の頭が赤^{レッド}で時点で、お前は充分明るいと思つのは俺だけか？

ああ、でも。沈んでる時のお前ほど、うつとうつして奴もいないな。

だつたら…

俺も、太陽が出てほし^ヒよ。

「で、ホントにさつきから何なんだ。ウザいな」

「ウザいなんて言わないで」

盟はやうに瞳を潤ませた。

ああ、やつぱり涙田なのは俺の氣のせいではないんだな。

てか、その団体でその仕草は、ある意味犯罪だと思つぞ。お前は可愛いつもりでいるかもしけんがな。

「で、だから何なんだ」

もう一度訊ねる。

双子だから以心伝心で伝わるものだと思つてゐるなら、大間違いだ。

双子であつても、それぞれ別人格だし、性格も違えば考え方や思考のタイプも違う。

端的に言へば、俺が理論的であるなら、盟は感覺的だ、と言つ事だ。

そんな奴を、「芸術家氣質」と言へば聞こえは良いが、とびのつまりは、ただの「バカ」。

天才とナントカは紙一重と言つが、俺の見解では、盟は確實にナントカの方に属すと思う。

いや、属す。断言して、属している。

「空が暗くても、周はヘーキ？」

「意味が分からん」

本当に、意味が分からない。

空が暗くて平氣か？って、何が。平氣じゃ悪いみたいな言い方だが、何かダメな事があるのか。て言つた、どうしてお前は平氣じやないんだ。

「青くなこなでこーの?」

「こやだから、意味不明だつて」

「周は青この?...」

「は?」

「青この?...」

「.....」

ああ。どうしよう。マイツ、本当にバカだ。

俺が青いって、もしかしてこの髪の色の事をやつこるのか?

いや、もしかしなくとも、やつだよな。やつなんだよな。

お前は、俺のこの色が、空色で、俺は青い空が好きなんだと、勝手にやう思つてこるんだよな。

どうだ。図星だろ?!

ああ、図星なんて言葉、お前には難しくて分からぬか。

何だか、兄ちゃんは、どうと疲れたよ。

「あのな、図。これは別に空の色じゃ……」

「オレがどんなに元氣でも、周がやつぱり向こうたらヤジちゃん

「……」

俺の言葉の途中で、盟がまた、意味不明な事を言つ。

俺は本氣で理解できぬ。

何だ?…どつこい意味だ?空の話はどついたってか、お前は話を飛ばしちゃうだ。

理解しようと努力する事をや、叶いそうもないぞ、「う。

「盟。意味が分からんつて……」

「どんなに明るくともか、壁があつちやダメなんだよ」

「いや、盟は俺の話に耳を貸すつもりはないからこそ。いつなると、自分が納得するまで」とん語つかう奴だから……仕方ない。最後まで聞いてやるか。

「雲の上つて、さつと明るいよ。でも、今田はそれが分かんない。どんなに俺が明るくてもか、周が沈んでりや、おもしろくなじやん。だつて周は空だもん。雲つてりや、ヤダ」

そう言つて、盟は再び窓から空を見上げる。

「周が沈んでたら、オレも沈んじゃつ。さつと太陽も元氣ない。だからオレ、沈んじゃつ」

ああ。なんとなく、お前の言わんとしている事、分かるよつたな氣

がするよ。

本当に、意味不明な“盟的理論”じゃあるけどな。

そんな意味不明な事が分かる辺り、やつぱり兄弟なんだうつな。

いやだなあ。

「周。太陽が輝けるのは空が青いからだよ。あの抜けぬように気持ち良い青色が好きだから、輝けるんだ」

そして今度は俺を見る。

もう、田は潤んじやいない。

「だから周。元氣出して」

真つすぐりに俺を見る盟の瞳は、やんなるぐうぐうに澄んでいて。

『ついで今日は、奴に屈しなければならな』よつだ。

「……元氣だよ」

少しの沈黙の後、ゆづくと、だがはつきと三つ打った。

元氣だ。充分、俺は元氣だよ。お前に心配されるなんて、これっぽつとも思つちゃいなかつたけど。

でも、サンキュー。

「周……」

盟がまた、何か言おうと口を開いた時。

「あれっ。お前ら、まだ残つてたんか?」

クラスメートで仲の良い友人の一人、ピンクのシンシン頭をした男が教室に入ってきた。

「楓」

男の名は荒谷楓。アラヤカエデ目がくりくりしていて、やたら可愛らしい顔をした、正真正銘の男だ。

「あれ。周たち、まだいたんだ」

「いたよ~」

楓の後ろからもう一人、黒髪の男が顔を出す。

これもクラスメートで仲の良い友人の一人。相場石榴。アイバザクロ通称ザク。

ザクの言葉に盟が返事をする。

「先帰つてりやいいのに」

そして最後に頭を出したこの男は、長髪で金髪の日和美月。ヒロミツキこれも、正真正銘の男で……

盟が、俺の事を心配した原因。

「えー。一緒に帰るうよ、仲良じじゃん」

たれ田をせりて垂れさせぬぐらじにへらへらと笑つて盟が言つ。

盟は、俺たちの中で潤滑油の役割も担つてると思ひ。

太陽、ではない。たとえ俺には太陽だとしても、俺たちだと、そうじゃない。

ああー。何だかんだで、やっぱり天才とナントカは紙一重つてのはホントだな。

バカ、なのにな。

そう思つたらちょっと愉快な気分になつて、一人でにやけてしまつた。

「周、何か良い事でもあつたか

にやけた俺に気付いた田和が冷めた調子で俺に言つた。

瞬間、せっかくの潤滑油が乾いてしまつた。が、気にしない。

だつて俺は、盟のバカに元氣づけられたから。

「別に」

一言。言つて、もう一度口を歪めてから、田和を真つすぐに見据えた。

「日和の髪が綺麗だなと思つて」

「ヤツと笑う。

「いつ笑い方をする時は、俺らしさを取り戻した証拠。だから、
盟は嬉しそうに笑ってる。

楓もザクも、ホツとしてる。

「帰るついで」

日和だけを見て言う。

俺と盟より長身で、もう少し線の細い日和は、端正な顔立ちのために冷たく見える。

でも、美人は嫌いじゃない。金髪もやつたら似合つてるし、だからむしろ好きだ。

だからこそ、俺たちの衝突はショッちゅうど……

日和は俺の呼び掛けに苦笑して答えた。

「言わねなくても」

「のー言で、今日の喧嘩はチャラ。

俺は、この喧嘩で沈んでこりのつもつはなかつたのだけど、盟にはそう見えていたようだ。

いや、実際に沈んでいたんだろう。そういう気配り……いや、勘は鋭い奴なんだ。

空の話は、理解が難しい所が多くあるが、そんな事はどうでもいい。気を遣つてくれた事が、ただ、嬉しい。

盟は、空が青いから太陽は輝けるのだと言つたけれど、俺は違う。

太陽が輝くから、空は青でいられるんだ。

心地好い気持ちでいられるんだ。

澄み渡る青空。

確かにそれが一番だよな、盟。

(後書き)

読んでくださいり、ありがとうございました。よかつたら、感想・批評を下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1996c/>

空

2010年10月9日02時26分発行